



～新年を迎えて～

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、少雨による記録的な水不足により、野菜類では作付け面積に制約を受け、また、果樹類では果実肥大期に例年以上に節水が求められる等、苦勞が絶えない年となりました。このような厳しい経営環境の中、島内外からの多くの期待に応える、品質の高い農産物を生産する農業者の皆様方のご努力に対し心より敬意を表します。

さて、農業センターでは、本年1月、長年にわたる病害研究の成果を取りまとめた「小笠原農作物病害図鑑」を発行することになりました。父島・母島の農作物（24科43種）で確認された113の病害を防除対策と合わせて掲載し、どなたでも使いやすい実用性の高い内容となっております。この冊子が農作物の品質向上や経営改善のお役に立てれば幸いです。農業センターでは、これまでパッションフルーツやシカクマメ、レモン、アテモヤ等に関する栽培技術をまとめた冊子を発行し、研究成果の還元を行ってきました。今後も生産現場に役立つ成果を上げるとともに、営農研修所と連携を図り、生産現場への速やかな還元を図って参ります。

一方、畜産指導所は、昭和61年母島に設置されて以降、黒毛和牛繁殖技術の普及や有畜農業の推進等を推進して参りましたが、一定の成果を収めたことを機に今年度末に閉

鎖する方針で検討を進めております。皆様より長きにわたるご支援を賜りありがとうございました。今後も和牛繁殖や養鶏等畜産業に関する支援を継続していくほか、農業振興施策の充実を図って参りますので、ご要望等、頂ければ幸いです。

小笠原農業にとって、昨年は大きな変化の年となりました。蝙蝠谷農業団地の活用検討が大きく前進し、念願であった新たな農地の供給・活用が具体化されつつあります。中の平農業団地との連携を図ることで、小笠原農業が更に発展することを関係者一同、期待をしているところです。本年はいよいよ返還50周年を迎え、多くの観光客の来島が予想されます。この機会を大きなチャンスと捉え、農業者の皆様と一丸となって各種事業を推進して参ります。

今や小笠原農業は島内産業の重要な担い手として、なくてはならない存在となっております。その期待と需要の変化に対応するため、パッションフルーツの定植時期や植栽密度、仕立て方、レモンやマンゴーの栽培面積拡大やアテモヤ等の新たな熱帯果樹の導入、加工品の開発等様々な挑戦を続けています。我々試験研究機関も関係機関との連携を強化し、より一層、皆様のお役に立てるよう努力してまいり所存です。今後とも皆様方のご支援を賜りますようお願い申しあげ、年頭の挨拶とさせていただきます。

〈産業課長：小井沼〉

～ マンゴーの収穫後の剪定について ～

これまでのセンターニュースで、マンゴーの冬から春の管理（No.105号）および夏から秋の管理（No.107号）についてお伝えしました。今回は、マンゴーの剪定についてご紹介します。

主力品種「アーウィン」は、隔年結果性の強い品種です。毎年しっかりと収量を確保するためには、収穫後の適切な剪定が重要です。

【剪定の時期】

収穫は7月から始まります。収穫が遅れたり、収穫終了が遅いと、その分剪定が遅くなり、剪定後の新梢（新しい芽）の生育が遅れます。新梢の充実した生育は、秋期の光合成能力を高め、樹勢回復に繋がります。そのため、どんなに遅くとも、8月末までに剪定を終わらせておく必要があります。収穫果がまだ樹に残っていても、来年の収穫を考え、思い切って剪定を優先させましょう。

【目標とする樹形について】

マンゴーは、放任するとどんどん上に伸びていき、樹高が高くなります。また、着果部位がどんどん外側に（株元から離れる）いきますので、樹冠内部に空間ができてきます。定期的に枝の更新を図り、低樹高で樹冠内部にも枝を配置するように管理しましょう。

【剪定の強弱】

「強剪定」「弱剪定」など、剪定の強弱は、樹齢やその年の着果状況によって異なります。着果の多かった樹の強剪定は、新梢の生長が遅れ、樹勢回復が不十分になることがありますので、樹齢10年以上の樹では特に注意が必要です。また、剪定期間が遅くなったときも、強剪定すると伸長が遅れるので、軽く切り返す（弱剪定：花穂の基部もしくは不定芽の上を切る）ことが適しています。

【剪定する枝】

病害虫被害枝や混み合っている所、樹冠内部の直立した枝、外側から内部に向かって伸びている内向枝、下に垂れ下がっている枝などです。

【剪定位置】

切る部位によって、その後に発生する枝の本数や強さが違ってきます。

伸長節の境部（輪状芽）で切った場合は、新梢の伸長は早いが、弱い（細い）新梢が多数発生してきます（下図）。伸長節の中央部から上位で切った場合は、新梢の伸長は遅いが、強い（太い）新梢が数本発生します。このため、樹勢の強すぎる枝は境部で切り、弱い枝は中央部から上位で切ることがポイントとなります。



図：境部で切った後の新梢の発生状況

【剪定後の作業】

枝の切り口からの病原菌の侵入を予防するために、有機銅塗布剤「バッチレート」を切り口に塗布することをお勧めします。また、剪定後に発生した新梢は早めに2～3本に間引き、新梢の充実を図るようにします。

剪定は、実際にやってみて、剪定した後の新梢の発生や着花状況などを確認し、改善することで上達していきます。

農業センターでは、今夏にマンゴーの剪定講習会の開催を予定しています。関心のある方はぜひご参加ください。

〈マンゴー担当：吉原〉

～ オガサワラオオコウモリからの被害防止対策 ～

【オガサワラオオコウモリの現状】

オガサワラオオコウモリは、天然記念物（文化財保護法：文部科学省）、国内希少種（種の保存法：環境省）に指定されており、島民を始め国民が協力して守っていくべきものとされています。しかし一方では、農作物に被害をもたらす“有害鳥獣”でもあるため、個体を傷付けないように農作物被害を回避するよう、上手に付き合っていかなければなりません。

個体数は年々増加していると言われていています。父島では普通に見られ、観光資源にもなっている一方、農作物被害も毎年報告されています。また、近年は母島でも観察されるようになってきており、昨年は母島の民家のマンゴーが加害され、今後の動向に注意が必要となっています。

【農作物の被害対策】

農作物の被害対策としては、かつては一般的な防鳥ネットでの防除が行われていたことがありましたが、大量の絡まり事故が発生したことにより、このような防除は行われなくなっています。しかし昨年も、キュウリネットに意図しない絡まり事故が発生しており、農業を行う上では気をつける必要があります。ノヤギ、ネズミのように駆除したり、病害虫のように殺菌・殺虫することはできないため、今のところは高密度ポリエチレン製ネット（商品名：トリカルネット）を用いて、物理的に農産物を囲う防除方法が最も有効な手段であり、村で補助事業が行われています。

1974年に

発行された切手→



物理的な防除は、一度設置したら終わりではありません。日頃から①破損や隙間がないか、②果樹の剪定は十分か、③周囲の雑草を刈っているかなど、生産者自らが管理を行うことが重要です。このことは、オガサワラオオコウモリへの対策になるだけでなく、他の病害虫やネズミ等への対策にも結びつきます。

【被害防除の検討】

オガサワラオオコウモリの生態は未だ知られていない点も多く、特性を把握して対策を検討する必要があります。

光・音・臭いによる防除は一時的には効果がありますが、“学習能力”がある動物に対しては“慣れ”が生じるため、すぐに効果が無くなることも予想されます。これらの防除は、周辺住民や他の動植物へ悪影響を及ぼすこともあるため、実行する時は配慮が必要です。

また、一度、味を覚えると、周辺の果実等にも来るようになります。実った果実等は放置せず、確実に収穫するなど未然の対策が重要です。

【オガサワラオオコウモリとの共存】

昨年12月1日には、第1回目の「オガサワラオオコウモリ保護増殖検討会」（環境省）が開催され、人と共存するための本格的な検討が始まりました。被害防除等の検討にあたっては、産業課として農業振興の視点から意見を発信していく予定です。

小笠原では、オガサワラオオコウモリと共存しながらの農業生産が避けられません。農業者の方々と一緒にこの課題に対応して参りますので、ご協力をお願いします。 <産業担当 常名・中村>

～ 冬期の菊池レモンの管理方法 ～

小笠原における冬期の菊池レモンの管理についてご紹介します。

■剪定

●12月下旬～1月下旬が適期

剪定の主な目的は作業性の向上、樹勢の維持、病虫害の軽減です。小笠原における菊池レモンの剪定適期は12月下旬～翌1月下旬となります。この期間は秋枝の発生・伸長が終わっており、春枝の発生前です。この期間以前に剪定をすると、中途半端に秋枝を発生・伸長させてしまい、無駄な養分消耗となり、樹勢の低下につながります。一方、剪定時期が遅れてしまうと、春枝を切ることでなくなり、収量に影響が出てしまいます。

●失敗しないためのコツ

○主枝を3本決めて骨格を作る

主幹から伸びる枝の勢いや配置を見て3本選び、主枝とします。それ以外の主幹からの枝は切除していきます。主枝は樹液を樹全体に送る心臓の役割をします(右上図)。

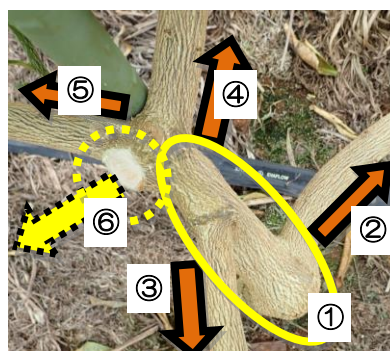
○除葉率を30%以下にとどめる

間引きを中心とした剪定を行い、悩んだら切らずに誘引も検討しましょう。葉は養分を多く含んでいるので、落とし過ぎてしまうと樹勢に影響が出ます。

■病虫害防除

●剪定後の防除が効率的

越冬害虫(ダニ類およびカイガラムシ類など)を対象にマシン油乳剤の散布を行います。冬期に園内の害虫密度を下げておくこ



- ① 主幹
- ② 主枝 1
- ③ 主枝 2
- ④ 主枝候補 1
- ⑤ 主枝候補 2
- ⑥ 切除した主枝

図：菊池レモン（3年生）の剪定

主幹から5本の枝が伸びていたため、⑥を切除。一度に切り過ぎると負担となるので、いずれ切除もしくは誘引して主枝を3本にする。

とで、春から夏の初期発生を抑制する効果があります。また、剪定後に実施することで、樹の隅々まで散布がしやすく効率的に防除ができます。あわせて、かいよう病の防除(ICボルドー66Dの散布)も菌密度が低い剪定後に行うと効果的です。使用方法によっては薬害をひき起こすことがありますので、各農薬のラベルの記載事項を守って使用してください。

■施肥

●冬期は2月中旬が適期

2月中旬、5月中旬、9月中旬が根の発生時期であり、最も効率的に吸肥されます。弱樹勢樹には液肥(尿素500倍など)の葉面散布も効果的です。

詳しくは「小笠原レモン栽培マニュアル」(<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/farm/manual.html>)を参照されるか、亜熱帯農業センターまでお問い合わせください。〈カンキツ類担当：荒井〉

試験成果報告会のお知らせ

下記のとおり平成29年度の試験成果報告会を開催いたします。

○母島 2月19日(月) 16:00～17:30 【営農研修所本館にて】

○父島 2月22日(木) 未定 【農協直売所2階にて】

詳細につきましては、村民だより等でお知らせいたします。

生産者および関係機関を対象に開催します。奮ってご参加ください。